ホームページ　http://www.nihonkanpoukyokai.com/
E-mail:　j.kampo@jeans.ocn.ne.jp

日本漢方協会通信

２９年　１０月

日本薬剤師会　学術大会へのおさそい

分科会７　かかりつけ薬剤師・薬局と薬局製剤・漢方

１０月８・９日　東京有楽町の東京ホーラムで薬剤師大会が開かれます

薬局製剤・漢方をテーマに分科会が開催されるのは、平成 17 年の広島大会以来である。
この間に薬剤師に対する生活者の期待は「かかりつけ薬局」「かかりつけ薬剤師」「健康サポート薬局」と大きくなっているが、これらは、薬局製剤を通じて、すでに行われてきていたことであると考える。
薬剤師・薬局の業務は、生活者の立場に立った対応が求められている。薬局製剤は調剤の技術を生かし、医薬品を製造販売してきた先達が残してくれた制度である。
薬局製剤を行っている薬局の意識調査では、「薬剤師の生き甲斐」という答えが多くあった。薬局製剤は、薬剤師が自ら原料医薬品の取り揃えから、製造・試験検査・販売・販売後のモニタリングまで、薬剤師としての知識・技能を十二分に発揮できる分野であり、薬剤師の資質向上並びに信頼される「かかりつけ薬局」の構築にも繋がるものである。薬局製剤は、今、現在の社会にマッチした品目と薬剤師による品質・安全性とが生活者より望まれている。

この分科会では、基調講演として国立医薬品食品衛生研究所生薬部の袴塚高志氏より「**薬局製剤（漢方薬）の品質を規定する公定書と有効性の基礎をなす承認基準について**」と題し、薬局製剤（漢方薬）の品質に深くかかわる一般用漢方製剤製造販売承認基準(新 210 処方)、日本薬局方等について解説する。続いてシンポジウムの１題目は日本薬剤師会薬局製剤・漢方委員会委員の八木多佳子氏より「**日本薬剤師会薬局製剤・漢方委員会の活動**」と題し、薬局製剤・漢方委員会の活動報告について、２題目は横浜薬科大学の金成俊氏より「**薬学教育における薬局製剤の現況**」と題し、薬学教育について、３題目は西多摩薬剤師会の小嶋延章氏より「**薬学実習生に対する薬局製剤講習の現場より**」と題し、薬局製剤の実習生受け入れについて、４題目はあおば薬局の佐藤真裕氏より「**薬局製剤の活用例～薬局開業 30 年、薬局製剤を継続した結果は？**」と題し、薬局製剤の活用例を、５題目はいまい漢方薬局の今井淳氏より「**薬局製剤の活動**」と題し、薬局製剤の研究と研修会について、６題目は東京都薬剤師会衛生試験所の安田一郎氏より「**葛根湯を例とした薬局製剤に優位な成分情報**」と題し、薬局製剤の優位性等について講演いただく。今後の薬局製剤の取り組み等について、パネラー間の質疑応答や、会場からの質問・意見、特に「かかりつけ薬剤師」、「健康サポート薬局」からの意見を期待している。
また、すでに薬局製剤を行っている方や、これから薬局製剤を行ってみようとする方と交流ができれば幸いである。

分科会７座長三上正利

日本漢方協会関係者の発表

●内田文子さん
「有料老人ホームにおける減薬の試み」
10 月 8 日　17 時 30 分～ 18 時 30 分
第 22 会場

●安部真知子さん
「薬局製剤　香蘇散の剤形による精油含量の検討」
10 月 9 日　12 時 30 分～ 13 時 30 分
第 12 会場

●髙山留美さん
「薬局製剤　紫雲膏の低温抽出による製造方法」
10 月 9 日　12 時 30 分～ 13 時 30 分
第 12 会場

●中村さやかさん
「桂枝湯の成分生薬の粒度による煎じ効果」
10 月 9 日　14 時 00 分～ 15 時 00 分
第 12 会場

●田中美穂さん
「五苓散の造粒による流動性の改善」

●細野美佐子さん
健康サポート薬局の部門で発表されます。